

重点取組分野	令和 元 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①基礎・基本の定着を図り、意欲をもって主体的に学ぶ子どもを育成する。②楽しく、わかる授業の充実を図り、達成感や成就感を数多く経験させる。③日々宿題を課し、採点・手直し・理解補強を積み重ね、家庭学習の充実や基礎・基本の定着を図る。	①基礎・基本の定着を目指し、一人ひとりの実態に応じて丁寧に指導した。②「楽しく、わかる授業」を実践することで、子どもの意欲を引き出したり、自信をつけさせたりするよう努力した。主体的に学ぶ姿を追求し続けた。③宿題の内容をさらに工夫して基礎的な知識・技能の定着を目指す。	B
豊かな心	①仲間づくりを大切に教育活動を実践する。②道徳教育・人権教育を充実させる。いじめの根絶に向けて取り組みを強化する。③一日の生活を豊かにする「あいさつ」の意味を考えさせ、日常に根付かせる。④教職員の人権意識を高める校内研修を実施する。⑤いちの学習を計画的に実践する。	児童指導の年間目標に「挨拶をしよう」掲げ、挨拶運動をしたり、繰り返し朝会などで指導したりしてきたが、なかなか元気な挨拶が定着しなかった。取組の工夫や徹底が今後の課題である。いちの学習は、保護者にも支持されている。自分も他の人の命も大切にすることを考えていきたい。	B
健やかな体	①日々の給食指導を通じて、食の大切さを実感させる。②体幹を鍛える。本校オリジナルの「滝小スマイル体操」を通して、よい姿勢や体づくりを目指すとともに、けがの予防に努める。③短縄跳びを計画的に行い、運動の機会を確保し、体力の向上を図る。	滝小スマイル体操は毎週定期的に行い、体づくりに努めてきた。短縄は天候や行事の都合もあり、実施できないことも多かった。体幹やけがの予防に対して目に見えるような成果は感じられないので、引き続きの取り組みと、できる限りの因果関係の解明や改善につなげていきたい。	B
児童指導	①規範意識の定着を図り、集団の一員として気持ちよく生活できるよう、支援・指導する。②友人間のトラブルを子ども一人ひとりに寄り添って解決する。③一部教科担任制を行い、全職員で全児童を育てる体制を進める。④Y-Pアセスメント調査活用による児童理解を図る。	①約束やルールを守れるようになってきたが、ふざけが多くトラブルになることがある。チームとしての体制を充実させ、粘り強く指導していく。②よく話を聞いて指導すると素直に振り返りができた。③一人ひとりを理解できるよう、職員同士の情報共有に努めた。	A
特別支援教育	①個別の教育支援計画・指導計画の作成とそれに基づいた特別支援教育の充実を図る。②個別支援学級運営の充実を図る(実態に応じた学習内容・学習形態の充実など)。③学習ルームや国際教室を開設し希望者の支援授業を実施する。④学習環境の充実を図る。	①支援計画・指導計画を作成し、関係機関とも連携しながら特別支援教育の充実を図った。②小グループ別の学習内容を工夫し、児童の人数増加と実態の多様化に対応した。③取り出し授業を行い、児童一人ひとりに合わせた支援を行った。④児童が見通しをもって安心して学習できるような環境を整えた。	A
地域連携	①地域の施設と交流を推進し、学習の中でタイアップしていく(総合・生活・社会科) ②学校と地域の安全のための夜間防犯パトロールを継続実施する。(学校地域協働本部) ③地域の行事にクラブの子どもたちや学校教職員が参加し、地域の方々と交流を図る。	①総合学習や生活科や社会科を通して地域と連携し相互理解につながった。クラブ活動の児童や6年生が地域のイベントに出演し交流を図れた。夜間防犯パトロールを年間2回実施し、非行の抑止力となっている。ホームページでの情報公開が好評を得ている。	A
自分づくり教育	①地域や身近な大人、仕事との交流を各学年やクラスごとに積極的にを行い、学習の中で意図的に推進を行っていく。 ②各教科、領域で目標に向かって努力する実践的な態度を養う。	①様々な教科を通して、身近な大人から仕事や役割に対する思いや考えを積極的に聞く機会を設けることで、自分の考え方を広げたり深めたりすることができた。②自ら課題や問題を見出しそれらの解決に向けて個々でも集団でも少しずつ学びの質を高めながら、着実に実践的な態度を養うことができた。	A
国際理解教育	①異文化を尊重する態度や異なる文化を持った人々と共に生きていく資質や能力の育成を図る。 ②外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。 ③国際教室では、生活・学習面ともに豊かで楽しい学校生活を送ることができるよう支援していく。	①国際理解教室や学校生活の中で異文化を素直に受け入れ、共に生きていく姿が見られた。②外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。③国際教室では、「学校が大好き・楽しい」という子どもを育てることができた。	A
いじめへの対応	①いじめの定義に関する正確な理解を周知徹底する。②道徳教育や人権教育やいじめの学習などを通して、いじめをゆるさない心情を育てる。③いじめの根絶に向けて、いじめの未然防止や早期発見、早期解決に組織的に取り組む。④子ども、保護者の心情に深く寄り添った丁寧な対応を徹底する。	①②③具体的な事例を通して周知徹底行うことができた。また、いじめ防止についての学習などを通して、いじめをゆるさない心情を育てる。④教師一人一人のいじめに対してのアプローチを高くもち、小さなことでも見逃さずに組織的に対応すると共に、子どもや保護者に丁寧に寄り添いながら支援を行った。	A
人材育成・組織運営(働き方改革)	①ミドルリーダーを中心に日常的に互いの実践を積極的に参観・情報交換し合い、授業・学級経営改善のための活動を行う。②主幹教諭や先輩教師が、学年研や各分掌において指導者としての意識をもち、積極的にメンターチームに関わる。③適材適所・抜擢により広く人材登用を行い、OJTを通して校務への参画意識を高める。④「OJTを通して校務への参画意識を高める。」	・メンターチームは計画的に研修を行い指導力向上に努めた。研究授業を通して先輩教員からの支援や指導も活発に行われた。・業務のスムーズ化に向けて各分掌で意識することができた。・一部教科担任制は児童理解において効果的であった。合理的なシステムを構築し働き方改革にもつなげた。	A
ブロック内評価後の気づき	・ブロックとして育てる子ども像を「自分づくり」に示し価値の実現をめざした授業公開や情報交換は、効果的であった。資質・能力の分析を共有化することで指導のポイントが明確になった。具体的な取組についても協働でできるような模索中である。・9年間を見通して小学校で身に付けておくべき学習内容や学習ルールについて話し合わせ、活かされている。・中学校のAETが複数回小学校を訪問し、学習指導を行ったことは児童にとって充実感や英語学習へ抵抗をなくすことに有効であった。他教科でも小中交流授業を広げていきたい。	今年度は感染拡大防止のため、授業公開や情報交換、交流授業は行えなかった。担当で情報交換を行い、来年度に向けて行事予定を確認したり、ブロックとしての取組について計画を立てることができた。感染対策にも配慮しながら、これまで積み上げて来た取組を続けていきたい。	
学校関係者評価	・保護者アンケートの結果では、「楽しく学べる工夫やわかりやすい指導をしている。」という良い評価を得た。また、「いちの学習」を継続してほしいという声が多かった。今後は、宿題の量や内容などさらに家庭との連携を進め、学力の定着や向上につなげていく必要がある。 ・「まちとともに歩む学校づくり懇話会」では、子どもたちがよく挨拶をしているという評価を得た。また、今年度から取り入れた一部教科担任制について、子どもが多くの教員とかかわる機会が増え、多面的できめ細かな支援につながっているという評価を得た。今後も継続してほしいという要望をいただいて	・保護者アンケートの結果では、コロナ禍で感染拡大防止の対策やできる限りの教育活動、丁寧な指導が評価された。ただ、一部授業日数や時数の減少で、学習の進み具合や理解について不安の声があった。 ・学校運営協議会でも、コロナ禍での学校対応に評価をいただいた。また、運動会や修学旅行の実施有無への貴重なご意見をいただき、子どもの健全育成や教育効果、思い出作りの価値に重点を置き、感染拡大防止の対策を講じながら実施することができた。	
中期取組目標振り返り	・低・中・高学年にブロックマネージャーを配置し、一部教科担任制を採用入れることにより、一人の子どもに対して多くの教職員が関わることができるようになり、きめの細かい組織的な児童指導体制を構築し、「全児童を全職員で」というスローガンを具現化することができた。その結果、いじめ問題に関しても、未然防止・早期発見・早期対応の感度や対応スピードがより高まった。 ・急増する外国籍およびつながらる児童が、出自に関して差別を受けることのないように、人権教育実践推進の柱として意識しながら支援体制を構築することができた。	低・中・高学年各ブロックへのチームマネージャーの配置と全学年における一部教科担任制が2年目を迎え、そのメリットがより明確になってきた。特に、TMネットワーク会議というチームマネージャー同士の情報交換会を毎週行うことで、児童指導に関する重要な情報を早期に把握し、有効な手立てを早めに講じることができた。より一層のきめ細かい組織的な児童指導体制を構築することができた。国際教室を中心とした外国につながる児童への支援体制もより丁寧なものになってきた。今後も特別支援教育を本校教育活動の根幹に据えて、一人ひとりを大切にしている学校経営を構築していきたい。	

重点取組分野	令和 2 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①楽しく、わかる授業の充実を図り、達成感や成就感を数多く経験できるようにする。②基礎・基本の定着を図り、意欲をもって主体的に学ぶ子どもを育成する。③日々宿題を課し、採点・手直し・理解補強を積み重ね、家庭学習の充実や基礎・基本の定着を図る。	①「楽しく、わかる授業」を実践することで、子どもの意欲を引き出したり、自信をつけさせたりするよう努力した。主体的に学ぶ姿を追求し続けた。②基礎・基本の定着を目指し、実態に応じて指導した。③宿題の内容を工夫して基礎的な知識・技能の定着を目指す。	B
豊かな心	①仲間づくりを大切に教育活動を実践する。②道徳教育・人権教育を充実させ、いじめの根絶に向けて取り組みを強化する。③「あいさつ」の意味を考え、日常に根付くようにする。④教職員・児童の人権意識を高める校内研修を実施する。⑤いちの学習を計画的に実践する。	人権週間の取組では、一人ひとりが「自分や周りの人々を大切にするために自分ができていること」を考え、実践した。今後も継続し、人権意識の向上を図りたい。いちの学習や学校保健委員会での取組を通して、自尊感情を高めることにつながった。	B
健やかな体	①日々の給食指導を通じ、食の大切さを知らせる。②体感を鍛える本校オリジナルの「のびのびひまわりストレッチ」滝小スマイル体操を行い、よい姿勢や体づくりを目指すとともに、けがの予防に努める。③短縄跳び等を計画的に行い、運動の機会を確保し、体力(特に持久力)の向上を図る。	①通信や調理風景の動画により、栄養や調理過程に興味をもたせることができた。②低学年が意欲的に取り組むことができた。高学年への広がりが課題である。③コロナにより集会をもつことができなかったが、各学年が種目やルールの工夫をし運動量を確保した。	B
児童指導	①規範意識の定着を図り、集団の一員として気持ちよく生活できるよう、支援・指導する。②友人間のトラブルを子ども一人ひとりに寄り添って解決する。③チーム学年経営・一部教科担任制を行い、全職員で全児童を育てる体制を進める。④Y-Pアセスメント調査活用による児童理解を図る。	①②基本的なきまりは守れるようになってきたが、自分の考えや思いをうまく伝えられないことや、相手の思いを受け入れられないことが多々ある。個々に寄り添いながらチームとしての体制を充実させ、粘り強く指導してきた。③④YPの活用も重点的に行いながら、職員の子どもに対しても進んで学習できるような環境を整えた。	A
特別支援教育	①個別の教育支援計画・指導計画の作成とそれに基づいた特別支援教育の充実を図る。②個別支援学級運営の充実を図る(実態に応じた学習内容・学習形態の充実など)。③学習ルームや国際教室を開設し希望者の支援授業を実施する。④学習環境の充実を図る。	①支援計画・指導計画を作成し、特別支援教育の充実を図った。②小グループ別でより実態に応じた指導を行った。一般級の児童が個別級に関わる場を設定した。③取り出し授業等を行い、様々な学習の場で児童が安心して過ごせるようにした。④児童が見通しをもって進んで学習できるような環境を整えた。	A
地域連携	①学校運営協議会と学校地域協働本部との連携により、地域の施設や団体との交流を推進し、総合・生活・社会科などの学習の中でタイアップしたり、夜間防犯パトロールを継続実施したりする。②地域の行事にクラブの子どもたちや学校教職員が参加し、地域の方々と交流を図る。	・コロナ禍での行事を学校運営協議会や学校地域協働本部の意見を踏まえて実施することができた。総合学習で地域と連携し相互理解につながった。夜間防犯パトロールを継続実施したりする。②地域の行事にクラブの子どもたちや学校教職員が行い、非行の抑止力となっている。ホームページでの情報公開が好評を得ている。	A
自分づくり教育	①地域や身近な大人、仕事との交流を各学年やクラスごとに積極的にを行い、学習の中で意図的に推進を行っていく。 ②各教科、領域で目標に向かって努力する実践的な態度を養う。	①生活科・総合的な学習の時間を中心とし、人・もの・ことにもふれる機会を設けることで、考え方を広げ、深めることができた。②自ら課題や問題を見出し、解決に向けて、試行錯誤しながら活動を行った。結果、学びの質を高めながら、実践的な態度を養うことができた。	A
国際理解教育	①異文化を尊重する態度や異なる文化を持った人々と共に生きていく資質や能力の育成を図る。 ②外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。 ③国際教室では、生活・学習面ともに豊かで楽しい学校生活を送ることができるよう支援していく。	①国際理解教室や人権週間を通して、異文化に対する理解が深まった。②外国語に慣れ親しむ、進んでコミュニケーションを図ろうとする姿が見られた。③国際教室で、教科生活支援、家庭支援を行い、安心して学校生活を送り、日本語能力も個々に上がった。	A
いじめへの対応	①いじめの定義に関する正確な理解を周知徹底する。②道徳教育や人権教育やいじめの学習などを通して、いじめをゆるさない心情を育てる。③いじめの根絶に向けて、いじめの未然防止や早期発見、早期解決に組織的に取り組む。④子ども、保護者の心情に深く寄り添った丁寧な対応を徹底する。	①具体的な事案を通して、未然防止の観点から周知徹底を行った。②子どもたちの実態から学びに繋げることを大切に、心情の育成に努めた。③④教師一人一人のいじめに対しての危機意識を高め、小さなことでも見逃さずに組織的に対応すると共に、子どもや保護者に丁寧に寄り添いながら支援を行った。	A
人材育成・組織運営(働き方改革)	①ミドルリーダーを中心に日常的に互いの実践を積極的に参観・情報交換し合い、授業・学級経営改善のための活動を行う。②主幹教諭や先輩教師が、学年研や各分掌において指導者としての意識をもち、積極的にメンターチームに関わる。③適材適所・抜擢により広く人材登用を行い、OJTを通して校務への参画意識を高める。④「OJTを通して校務への参画意識を高める。」	①コロナ禍で制限があったが、できる限り授業実践や情報交換に努めることができた。②リリーダー等が積極的にメンターチームに関わることができた。③個々が自分の役割を理解し、当事者意識をもって職務に当たっていた。④教科担任制を生かして、特に児童理解を充実させることができた。	A
ブロック内評価後の気づき	・ブロックとして育てる子ども像を「自分づくり」に示し価値の実現をめざした授業公開や情報交換は、効果的であった。資質・能力の分析を共有化することで指導のポイントが明確になった。具体的な取組についても協働でできるような模索中である。・9年間を見通して小学校で身に付けておくべき学習内容や学習ルールについて話し合わせ、活かされている。・中学校のAETが複数回小学校を訪問し、学習指導を行ったことは児童にとって充実感や英語学習へ抵抗をなくすことに有効であった。他教科でも小中交流授業を広げていきたい。	今年度は感染拡大防止のため、授業公開や情報交換、交流授業は行えなかった。担当で情報交換を行い、来年度に向けて行事予定を確認したり、ブロックとしての取組について計画を立てることができた。感染対策にも配慮しながら、これまで積み上げて来た取組を続けていきたい。	
学校関係者評価	・保護者アンケートの結果では、「楽しく学べる工夫やわかりやすい指導をしている。」という良い評価を得た。また、「いちの学習」を継続してほしいという声が多かった。今後は、宿題の量や内容などさらに家庭との連携を進め、学力の定着や向上につなげていく必要がある。 ・「まちとともに歩む学校づくり懇話会」では、子どもたちがよく挨拶をしているという評価を得た。また、今年度から取り入れた一部教科担任制について、子どもが多くの教員とかかわる機会が増え、多面的できめ細かな支援につながっているという評価を得た。今後も継続してほしいという要望をいただいて	・保護者アンケートの結果では、コロナ禍で感染拡大防止の対策やできる限りの教育活動、丁寧な指導が評価された。ただ、一部授業日数や時数の減少で、学習の進み具合や理解について不安の声があった。 ・学校運営協議会でも、コロナ禍での学校対応に評価をいただいた。また、運動会や修学旅行の実施有無への貴重なご意見をいただき、子どもの健全育成や教育効果、思い出作りの価値に重点を置き、感染拡大防止の対策を講じながら実施することができた。	
中期取組目標振り返り	・低・中・高学年にブロックマネージャーを配置し、一部教科担任制を採用入れることにより、一人の子どもに対して多くの教職員が関わることができるようになり、きめの細かい組織的な児童指導体制を構築し、「全児童を全職員で」というスローガンを具現化することができた。その結果、いじめ問題に関しても、未然防止・早期発見・早期対応の感度や対応スピードがより高まった。 ・急増する外国籍およびつながらる児童が、出自に関して差別を受けることのないように、人権教育実践推進の柱として意識しながら支援体制を構築することができた。	低・中・高学年各ブロックへのチームマネージャーの配置と全学年における一部教科担任制が2年目を迎え、そのメリットがより明確になってきた。特に、TMネットワーク会議というチームマネージャー同士の情報交換会を毎週行うことで、児童指導に関する重要な情報を早期に把握し、有効な手立てを早めに講じることができた。より一層のきめ細かい組織的な児童指導体制を構築することができた。国際教室を中心とした外国につながる児童への支援体制もより丁寧なものになってきた。今後も特別支援教育を本校教育活動の根幹に据えて、一人ひとりを大切にしている学校経営を構築していきたい。	

重点取組分野	令和 3 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①楽しく、わかる授業の充実を図り、達成感や成就感を数多く経験できるようにする。②基礎・基本の定着を図り、意欲をもって主体的に学ぶ子どもを育成する。③日々宿題を課し、採点・手直し・理解補強を積み重ね、家庭学習の充実や基礎・基本の定着を図る。	①楽しく、わかる授業の充実を図り、達成感や成就感を数多く経験できるようにする。②基礎・基本の定着を図り、意欲をもって主体的に学ぶ子どもを育成する。③日々宿題を課し、採点・手直し・理解補強を積み重ね、家庭学習の充実や基礎・基本の定着を図る。	
豊かな心	①仲間づくりを大切に教育活動を実践する。②道徳教育・人権教育を充実させ、いじめの根絶に向けて取り組みを強化する。③「あいさつ」の意味を考え、日常に根付くように取り組みを強化する。④教職員・児童の人権意識を高める校内研修を実施する。⑤いちの学習を計画的に実践する。	①仲間づくりを大切に教育活動を実践する。②道徳教育・人権教育を充実させ、いじめの根絶に向けて取り組みを強化する。③「あいさつ」の意味を考え、日常に根付くように取り組みを強化する。④教職員・児童の人権意識を高める校内研修を実施する。⑤いちの学習を計画的に実践する。	
健やかな体	①日々の給食指導を通じ、食の大切さを知らせる。②体感を鍛える本校オリジナルの「のびのびひまわりストレッチ」滝小スマイル体操を行い、よい姿勢や体づくりを目指すとともに、けがの予防に努める。③短縄跳び等を計画的に行い、運動の機会を確保し、体力(特に持久力)の向上を図る。	①日々の給食指導を通じ、食の大切さを知らせる。②体感を鍛える本校オリジナルの「のびのびひまわりストレッチ」滝小スマイル体操を行い、よい姿勢や体づくりを目指すとともに、けがの予防に努める。③短縄跳び等を計画的に行い、運動の機会を確保し、体力(特に持久力)の向上を図る。	
児童指導	①規範意識の定着を図り、集団の一員として生活できるよう、支援・指導する。②言葉で理解し合える関係づくりを目指し、暴力案件を減らす。学年経営・一部教科担任制を行い、全職員で個々に寄り添った指導体制を進める。④Y-Pアセスメント調査とそれに伴ったYP活動を年2回行う。	①規範意識の定着を図り、集団の一員として生活できるよう、支援・指導する。②言葉で理解し合える関係づくりを目指し、暴力案件を減らす。学年経営・一部教科担任制を行い、全職員で個々に寄り添った指導体制を進める。④Y-Pアセスメント調査とそれに伴ったYP活動を年2回行う。	
特別支援教育	①個別の教育支援計画・指導計画の作成とそれに基づいた特別支援教育の充実を図る。②個別支援学級運営の充実を図る(実態に応じた学習内容・学習形態の充実・啓蒙など)。③学習ルームや国際教室を開設し希望者の支援授業を実施する。④学習環境の充実を図る。	①個別の教育支援計画・指導計画の作成とそれに基づいた特別支援教育の充実を図る。②個別支援学級運営の充実を図る(実態に応じた学習内容・学習形態の充実・啓蒙など)。③学習ルームや国際教室を開設し希望者の支援授業を実施する。④学習環境の充実を図る。	
地域連携	①学校運営協議会と学校地域協働本部との連携により、地域の施設や団体との交流を推進し、総合・生活・社会科などの学習の中でタイアップしたり、夜間防犯パトロールを継続実施したりする。②地域の行事にクラブの子どもたちや学校教職員が参加し、地域の方々と交流を図る。	①学校運営協議会と学校地域協働本部との連携により、地域の施設や団体との交流を推進し、総合・生活・社会科などの学習の中でタイアップしたり、夜間防犯パトロールを継続実施したりする。②地域の行事にクラブの子どもたちや学校教職員が参加し、地域の方々と交流を図る。	
自分づくり教育	①地域や身近な大人、仕事との交流を各学年やクラスごとに積極的にを行い、学習の中で意図的に推進を行っていく。 ②各教科、領域で目標に向かって努力する実践的な態度を養う。 ③タブレット等を有効活用する。	①地域や身近な大人、仕事との交流を各学年やクラスごとに積極的にを行い、学習の中で意図的に推進を行っていく。②各教科、領域で問題解決的な学習過程を大切に、目標に向かって努力する実践的な態度を養う。③タブレット等を有効活用する。	
国際理解教育	①国際教室では、生活・学習面ともに豊かで楽しい学校生活を送ることができるよう児童・家庭を支援する。②異文化を尊重する態度や異なる文化を持った人々と共に生きていく資質や能力の育成を図る。③外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。	①国際教室では、生活・学習面ともに豊かで楽しい学校生活を送ることができるよう児童・家庭を支援する。②異文化を尊重する態度や異なる文化を持った人々と共に生きていく資質や能力の育成を図る。③外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。	
いじめへの対応	①いじめの定義に関する理解を周知徹底する。②道徳教育や人権教育の充実③いじめの根絶に向け、アンケートを実施し、未然防止や早期発見、早期解決に組織的に取り組む。④子ども、保護者の心情に深く寄り添った丁寧な対応を徹底する。⑤職員間の円滑な情報共有を行う。	①いじめの定義に関する理解を周知徹底する。②道徳教育や人権教育の充実③いじめの根絶に向け、アンケートを実施し、未然防止や早期発見、早期解決に組織的に取り組む。④子ども、保護者の心情に深く寄り添った丁寧な対応を徹底する。⑤職員間の円滑な情報共有を行う。	
人材育成・組織運営(働き方改革)	①毎週の学年研で互いの実践を情報交換し合い、授業・学級経営改善を行う。②年に3回程度は、管理職や先輩教師が、指導者、相談役としてメンターチームに関わる。③適材適所・抜擢により広く人材登用を行い、OJTを通して校務への参画意識を高める。④全学年で一部教科担任制を実施し、教材研究の時間を確保する。	①毎週の学年研で互いの実践を情報交換し合い、授業・学級経営改善を行う。②年に3回程度は、管理職や先輩教師が、指導者、相談役としてメンターチームに関わる。③適材適所・抜擢により広く人材登用を行い、OJTを通して校務への参画意識を高める。④全学年で一部教科担任制を実施し、教材研究の時間を確保する。	
ブロック内評価後の気づき	・ブロックとして育てる子ども像を「自分づくり」に示し価値の実現をめざした授業公開や情報交換は、効果的であった。資質・能力の分析を共有化することで指導のポイントが明確になった。具体的な取組についても協働でできるような模索中である。・9年間を見通して小学校で身に付けておくべき学習内容や学習ルールについて話し合わせ、活かされている。・中学校のAETが複数回小学校を訪問し、学習指導を行ったことは児童にとって充実感や英語学習へ抵抗をなくすことに有効であった。他教科でも小中交流授業を広げていきたい。	今年度は感染拡大防止のため、授業公開や情報交換、交流授業は行えなかった。担当で情報交換を行い、来年度に向けて行事予定を確認したり、ブロックとしての取組について計画を立てることができた。感染対策にも配慮しながら、これまで積み上げて来た取組を続けていきたい。	
学校関係者評価	・保護者アンケートの結果では、「楽しく学べる工夫やわかりやすい指導をしている。」という良い評価を得た。また、「いちの学習」を継続してほしいという声が多かった。今後は、宿題の量や内容などさらに家庭との連携を進め、学力の定着や向上につなげていく必要がある。 ・「まちとともに歩む学校づくり懇話会」では、子どもたちがよく挨拶をしているという評価を得た。また、今年度から取り入れた一部教科担任制について、子どもが多くの教員とかかわる機会が増え、多面的できめ細かな支援につながっているという評価を得た。今後も継続してほしいという要望をいただいて	・保護者アンケートの結果では、コロナ禍で感染拡大防止の対策やできる限りの教育活動、丁寧な指導が評価された。ただ、一部授業日数や時数の減少で、学習の進み具合や理解について不安の声があった。 ・学校運営協議会でも、コロナ禍での学校対応に評価をいただいた。また、運動会や修学旅行の実施有無への貴重なご意見をいただき、子どもの健全育成や教育効果、思い出作りの価値に重点を置き、感染拡大防止の対策を講じながら実施することができた。	
中期取組目標振り返り	・低・中・高学年にブロックマネージャーを配置し、一部教科担任制を採用入れることにより、一人の子どもに対して多くの教職員が関わることができるようになり、きめの細かい組織的な児童指導体制を構築し、「全児童を全職員で」というスローガンを具現化することができた。その結果、いじめ問題に関しても、未然防止・早期発見・早期対応の感度や対応スピードがより高まった。 ・急増する外国籍およびつながらる児童が、出自に関して差別を受けることのないように、人権教育実践推進の柱として意識しながら支援体制を構築することができた。	低・中・高学年各ブロックへのチームマネージャーの配置と全学年における一部教科担任制が2年目を迎え、そのメリットがより明確になってきた。特に、TMネットワーク会議というチームマネージャー同士の情報交換会を毎週行うことで、児童指導に関する重要な情報を早期に把握し、有効な手立てを早めに講じることができた。より一層のきめ細かい組織的な児童指導体制を構築することができた。国際教室を中心とした外国につながる児童への支援体制もより丁寧なものになってきた。今後も特別支援教育を本校教育活動の根幹に据えて、一人ひとりを大切にしている学校経営を構築していきたい。	